

東京バッハ合唱団 月報

[第 570 号] 2009 年 12 月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.570
December 2009

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

佳境の 2009 年を送り、希望の新年を迎える

大村 恵美子

未曾有の世界不況にも打ち克ち、数々の困難も乗り越えて初志貫徹、フライブルクで、シュトゥットガルトで多くの聴衆の心をとらえて帰国、合唱団の 2009 年は佳境に達して暮れてゆきます。

過去 4 回のヨーロッパ演奏旅行の、これまでの状況とはまるで違う、と心配を投げかける周囲の警告には、もっともと肯けるふしも多々ありました。日本人の多数が、すっかり内向きになって孤立化し、外に出てゆかないで、坐してあらゆる現象を自分の中に取り込む傾向になってきたのでしょうか。

政治・社会の非人間化は、わが合唱団にも容赦なく襲いかかりました。口コミやホームページの案内などで、やっとバッハを楽しく歌えるところにたどり着いた、もっと早く知ればよかったと目を輝かせた何人かの青年たちも、職場の不安定のせいであつという間に退団して消えてしまい、あるいは、定年退職後の生きがいに、これからはバッハに没頭できると喜んだ方々も、自らの体調不良ばかりでなく、家族の介護に明け暮れる日々となり、演奏旅行の参加もかなわず、創立 50 周年記念の大プランを前にしながら退団を余儀なくされました。

そんななかで、私たちの公演旅行実現を力強く支え、励ましてくださったのが、後援会の方々の変わらぬ温かいおこころざしと、全国から 150 余名にもものぼる皆様の、募金目標(300 万円)を突破するご支援・ご声援でした。みんなの夢をぜひとも叶えてみせてください、という大きなご期待が、私たちを動かしてくださったのです。

日本のチャリティ文化の未成熟はよく言われます。弱い人、貧しい人への同情には容易に心を開くのに、心の高まり、深まりに励む芸術活動には、自分たちでやれ、と突き放す人の多いのは、まだ近代 現代への社会の推移をたどることの浅い、後進国の段階にあるせいでしょうか。私たちの場合は例外となりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

来たるべき新年からの条件も、だんだん整ってきました。もっとも困難を感じていたのは、定期演奏会のための会場確保。このところ、使用料が比較的安価なホールの、土・日希望の抽籤には、東京中の団体が殺到し、演奏計画立案に支障をきたすことが多かったのですが、さいわい次回、第 104 回の会場として、改築工事中だった

石橋メモリアルホールが、長年の使用実績をふまえて、2010 年の新装オープン時のホール使用を取り決めてくださいました(6 月 6 日、日曜日)。この一事から、つぎつぎにプラスの要素が引き出されてきます。

さいわい日本の社会も、新政権の発足とともに国土全体のひずみ是正に乗り出しました。私たちも、各人の生きがいを全うしようと努力を積み重ねる同志を 1 人でも多く誘って、来年 6 月 6 日の定演を、倍増の団員で迎えたいものです。

また、困難をきわめたこの 1 年に、ひきつづき暖かいご支援で私たちを満たしてくださった後援会員の皆様も、新年からは、年 2 回の定期演奏会成立を目指す私たちに期待をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

年末年始には、下記のような催しが予定されていますので、後援会員の皆様、コンサートへのご常連の方々、月報ご愛読の諸氏をはじめ、多くのサポーターの皆様にも、ぜひご参加いただけますよう、お待ちしております。

年末年始の行事予定

サポーターの皆様のご参加をお待ちします

- 12 月 5 日(土) 世田谷中央教会(桜新町) 16:00 開演
特別演奏会“バッハの音楽でクリスマス”
- 12 月 7 日(月) 目白会場(目白聖公会) 18:30 - 20:30
- 12 月 12 日(土) 世田谷会場(上記教会) 15:30 - 17:30
各、年内の最終練習(来年 104 定期の曲目練習開始、見学歓迎)
- 12 月 14 日(月) 目白聖公会、18:30 開会
クリスマス祝会 会費: 1000 円(軽食の用意あり・要予約)、
飲食物の差し入れ大歓迎、ミニバザー同時開催。

2010 年

- 1 月 9 日(土) 世田谷会場
15:30 - 17:30 新年の練習開始(見学歓迎)
18:00 - 20:00 新年懇親会 会費: 3500 円(要予約)
会場: *Il Cibo fresco* (イル・チボ・ルスカ)(イタリア料理)、
練習場(世田谷中央教会)のある「桜新町」駅のすぐ近くです。詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ・参加お申し込み: 東京バッハ合唱団
電話・FAX・Eメール...当「月報」タイトル囲み参照

すべてのことに時あり

Alles hat seine Zeit!

東京バツハ合唱団、シュトゥットガルト訪問に寄せて

クルト・G・ヴォルフ

(シュトゥットガルト市パウロ教会主任牧師)

2008 年のある時期、南牧師から、東京バツハ合唱団が 2009 年の夏に、シュトゥットガルトでの公演が出来るかどうかと問われた時、わたしたちすべての者は、そういう企画が成功するかどうか、知りませんでした。

わたしたちが 2008 年、指揮者の大村恵美子さんに最初にお会いした時、その計画は既にはっきりとした形を取っておりまして。ただ、わたしたちにとって、公演の時期が夏休み中であることが唯一の心配でした。その時期は、多くの人が旅行中か、あるいは休暇を取っているのです。一体コンサートに来る人がそもそもいるかどうかでした。他の日程は、不可能であったため、その線で準備が始まったのです。

2,3 の曲を、われわれのパウロ聖歌隊のメンバーと歌いたい、との計画でしたから、わたしは聖歌隊の人に問ってみました。「それは無理です、だって休暇中ですから」これが最初の返事でした。休暇が始まり、公演の日が迫って来ました。そこでわたしは再度聞いてみたのです。するとどうでしょう。それは可能となったのです。20 人以上の男女の聖歌隊のメンバーが共演に協力してくれると言うのです。そしてディーター・クルツ教授の指導で集中的に数回の練習が行なわれました。

そして公演の日がやって来ました。事実小さな奇跡が起こったのです。すべてのことが摩擦なく行なわれました。教会には沢山の聴衆が集まり、彼らは、魅了されました。しかも、教会テレビ局の担当者が大村恵美子さんとのインタビューにやって来たのです。

コンサートそれ自体、日本の合唱団の皆さんとの出会い、そして協演できたこと、これらはすべて、わたしたちにとって豊かな経験でした。

わたしたちは、このような出会いが可能となり、大き

な成功をもたらしたことを、非常に感謝しています。パウロ福音主義教会の名で、わたしは関係者すべての方々に、心から感謝したいと思っています。特に、大村恵美子さん。それに忘れてはならないのは、南吉衛牧師です。同牧師の働きがなければ、ヨーロッパと日本を結ぶこのような企画は、そもそも実現しなかったことでしょう。同時にわたしは、このような企画が将来も何らかの方法で継続されることを願い、東京バツハ合唱団と今後の歩みの上に、最善と神の祝福を願っています。

(訳・南 吉衛)

Alles hat seine Zeit!

(Zum Besuch des Tokyo-Bach-Chores in Stuttgart)

Als Pfarrer Minami während des Jahres 2008 anfragte, ob der Bach-Chor Tokyo im Sommer 2009 in der Pauluskirche singen könnte, wussten wir alle noch nicht, ob ein solches Projekt gelingen könnte.

Bei unserer ersten Begegnung im Jahr 2008 mit der Dirigentin Emiko Omura nahm der Plan schon deutliche Gestalt an. Einzig der Termin mitten in den Sommerferien bereitete uns Sorgen. Viele Menschen sind verreist oder im Urlaub. Wird überhaupt jemand zum Konzert kommen? Ein anderer Termin war jedoch nicht möglich, und so begannen die Vorbereitungen.

Da geplant war, dass eine paar Stücke zusammen mit Mitgliedern unseres Pauluschores gesungen werden sollten, fragte ich beim Pauluschor an. Unmöglich, das geht nicht, wegen der Ferien - war die erste Antwort.

Die Ferien kamen, der Termin rückte näher, und ich versuchte es ein weiteres Mal. Und siehe, es klappte. Über zwanzig Sängerinnen und Sänger waren bereit mitzumachen und probten mit Prof. Dieter Kurz einige Male intensiv, und so kam der Tag der Aufführung.

Und tatsächlich geschah ein kleines Wunder. Alles klappte reibungslos. Die Kirche war sehr gut besucht, und die Zuhörer waren begeistert. Sogar das Kirchenfernsehen war zu einem Interview mit Frau Omura da. Das Konzert, die Begegnung mit den japanischen Sängerinnen und Sängern, das Miteinander-Musizieren war für uns alle eine Bereicherung. Wir sind sehr dankbar, dass diese Begegnung stattfinden konnte und ein großer Erfolg wurde.

Im Namen der Evangelischen Paulusgemeinde möchte ich allen Beteiligten ganz herzlich danken. Mein besonderer Dank gilt Frau Emiko Omura und -last but not least- Herrn Pfarrer Kitchie Minami, ohne dessen Mitwirken dieses Kontinente übergreifende Projekt nie zu Stande gekommen wäre.

Gleichzeitig hoffe ich, dass es in irgendeiner Weise weitergeht und wünsche dem Tokyo-Bach-Chor und seiner Leitung alles Gute und Gottes Segen.

Kurt G. Wolff,

geschäftsführender Pfarrer der Paulusgemeinde Stuttgart



小枝をかざすヴォルフ牧師(中央)とソプラノ独唱の光野孝子さん(左), 指揮者・大村恵美子(右).
写真全体を月報9月号に掲載[提供:増田啓氏(シュトゥットガルト日本語教会員.9月号ではパウロ教会員と誤記しました.訂正いたします)]

余りある感動

南 吉衛

(シュトゥットガルト・パウロ教会協力牧師、団友)

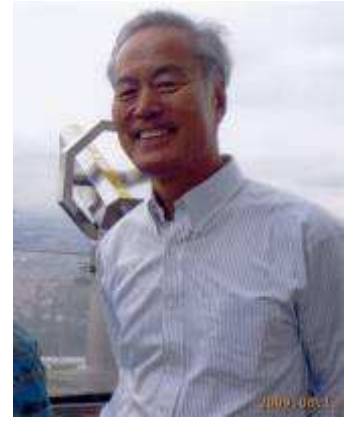
一つの企画が、成功裡に終わるためには、幾つかの条件が満たされなければなりません。今回のパッサ合唱団公演について言えば、大村恵美子さんを中心とする日本側の熱意が先ずあげられねばならないでしょう。参加されたメンバーの方々は勿論のこと、背後で、いろいろな方法で支えて下さった人たちの働きも大きな役割を果たしていたと思います。

わたしにとって一番の心配は、「集客係」として、当日どれほどの人たちが、コンサートに来てくれるか、ということでした。夏休みの最中であるという、マイナスの条件は多々聞いておりました。しかし実際は、そういう心配は、吹っ飛んでしまい、パウロ教会の場合には 250 人以上、ムターハウスの場合も 230 人以上の人たちが来てくれました。このことは、関係者全員に大きな喜びでした。チラシ作りに、特技を生かして貢献して下さいしたのは、パウロ教会のヴォルフ牧師です。彼は、最後の 2-3 週間になって、まるで長距離のランナーがラストパートをかけるように、最大の努力をしてくれました。地元複数の新聞が、その週の「催し物案内」の欄にコンサートの記事を載せてくれたことも益となりました。

過去数回、ドイツ公演旅行に参加された人であれば、今回と前回の違いに気が付かれたと思いますが、その一つは、パウロ教会の聖歌隊有志の人たちと共演が出来たことです。そのために労を惜しまなかった、指揮者、音大教授のクルツさんの親切を忘れることが出来ません。宿舎をムターハウスにしたことも、メンバーの皆さんにとって忘れがたいものとなったことでしょう。その他、親睦会の会場作りをして下さった、教会の会堂守の人たちの隠れた働きも忘れることが出来ません。

コンサートを、教会関係のテレビ局が取材に来ていましたが、終演直後になされたインタビューでは、当日の出席者が、「とても興味深かった」、「感動した」、「皆さんのドイツ語に特に違和感はなかった」等の感想を述べています。

わたしは、3 年間の契約で、ドイツ南部のヴュルテンベルク州教会で働いていますが、このコンサートが 3 年目の夏に実施されたこともプラスに働いたと思っています。わたしの存在がこの町と教会で知られていることも益となりました。わたしにとっても今回のことは、生涯忘れることが出来ないものとなるでしょう。種々の犠牲を払って、シュトゥットガルトまで来て下さり、多くの感動を残して下さいましたメンバーの方々、有り難うございました。



南 吉衛 牧師
シュトゥットガルトのテレビ塔にて

ご同行くださった 3 人の演奏家のみなさん
東京パッサ合唱団のわたしたち全員、心からの感謝を、
もう一度!!



パウロ教会ギャラリー
上での演奏。光野孝子さん
Soprano / 山田恵美子
さん Flute.
Stuttgart 8 月 12 日



黄昏の古城
Heidelberg
8 月 14 日

背景のアル
ザス風で昼食
Colmar
8 月 10 日



シュトゥットガルトでの演奏はインターネットTVで放映中。
画面は、演奏中の金澤亜希子さん Organ .
www.kirchenfernsehen.de (Web 上にいつまでであるか分かりません)
<http://www.kirchenfernsehen.de/index.php?id=4&flv=524&play=1>

【楽譜出版協力募金】報告 2009 年 11 月 30 日現在
ご応募：91 名
合計額：8,136,000 円 (以上累計)
達成率：81.36% 目標 1000 万円

新刊のご紹介

『物語 ストラスブールの歴史』

国家の境界、ヨーロッパの中核』

『オクスフォード ヨーロッパ近代史』

内田日出海著（中公新書、2009年10月刊）

T.C.W.プランニング編著、望田幸男/山田史郎監訳（ミネルヴァ書房、2009年9月刊）

大村 恵美子

旅行した場所の歴史を、その直後に読んでみると、まるでわがことのように、生き生きとヴィジュアルな光景をともなって理解することができる。とりわけ、戦後初めての本格的政権交代がやっと果たせたわが国にとって、先進国から成り立っているヨーロッパが、後から近代国家の仲間入りをして、追いつけ追いこせと息せき切ってきた日本が、どんな点で、近代から現代への経過を大雑把に飛び越えてきたか、この2冊を読むことで、まざまざと解るようだ。

は、オクスフォード大学出版局が1996年に出版した原著の翻訳であるが、19世紀のヨーロッパ、20世紀のヨーロッパ、と2部に分けて、それぞれ政治・経済・軍事・社会・文化と5つの章分けをして述べている。この2世紀の歴史を頭の中で整理するのに、格好な本である。とくに20世紀のヨーロッパの後半は、2つの世界大戦後、地球上がひとつの動きとなって、密接な因果関係で、息をもつかせぬような出来事を、同時体験してきた。巻末の年表をみると、ほとんど全部の記事が、当時のテレビの画面や新聞・雑誌の論調にいたるまで、ほんの昨日のことのように思い出せるのである。この2世紀で、人類はとてつもない進化と、それを覆してあまりある大罪とをくりひろげてきた。人類絶滅の崖っぷちまで突き進んで、ヨーロッパは踏みとどまり、これまた史上初のEUという連合体を築き上げようとしている。これは目下、展開のさなかで、終極の成功は誰にもわからない。

しかし、この夏、その中心部のドイツ・フランスを（ほんの一部ではあるが）巡ってきて、住人たちが、いたずらに欲望に振り回されることなく、落ち着いた、平和的な生活を享受している様子を見ることができた。ひるがえって、日本は、明治維新以来、大変な勢いでこれらの国々の社会の仕組みを取り入れてきたが、とくに人権を中心とした、社会生活の諸制度の、いちばん大事な精神を、理解し、消化することに成功しなかった。封建的な昭和までの古層をそのまま数十年も引きずってきた自民党政権がやっと自壊し、いよいよ近代が始まるようとしているのが、われわれの現状である。

のストラスブール（現地で私は、地元住民がみんなストラスブールと発音しているのを聞いていたが、ドイツ語読みのシュトラースブルクが語源なので、ストラスが第1、そのうちストラスとフランス

語風に発音しやすくなったのだろう）の歴史は、旅行でほんの短時間、滞在しただけだったが、この著書に述べられているとおり、ヨーロッパそのものの、最も典型的な都市であることは、十分感じとることができた。

歴史の始まりから今日にいたるまで、ヨーロッパが対面してきた問題を、すべてこの都市が背負い、苦しみ、解決し、そして統合に向けて努力を払ってきたのだった。今やEUの理想実現にむかって、古き良きものは注意深く保存しながら、さらにEUの要求に対して街中を提供しつつあるのだ。深い体験にもとづいて、多民族間・多国家間の寛容を早くから身につけ、争わずして各人の幸福を根付かせる、大人の社会を証示しようとする都市（まち）となっている。

新政権を選んだ私たちは、期せずして、お誂えのようなお手本をこの目で見てきたわけである。市の中心地域を、自動車の氾濫からトラム（路面電車）とトロリーバスの優先へと切り替えるなど、いくつもの面で環境整備にも先んじている。

ここに挙げた2冊の新刊は、私たちの夏の体験の意図づけを補完してくれる、まことにタイムリーな出版だと、またしても今年の収穫に感謝するものである。人間は過去の多いものだが、かならず理想にむかって立ち直ることが、生きる内容となる。新年にむかって、のびのびと深呼吸する思いになれた。

第104回定期演奏会の予告（概要）

【日時】2010年6月6日（日）、14:00開演

【会場】石橋メモリアルホール（2010年5月新装開館）

カンタータ第17番（感謝ささげ 頌め歌うものに）

カンタータ第52番（悪しきこの世よ なれを頼まじ）

カンタータ第124番（イエス 共にあらん）

カンタータ第4番（キリスト 死につなげられし）

久々の定期演奏会です。

第17番と52番は、われわれの定期演奏会では初めて取り上げる曲です。前号で新刊楽譜の紹介をした第17番は、後の小ミサ曲ト長調のCum sancto Spirituに転用された壮大なフーガ構成の冒頭合唱が圧巻。ソプラノ独唱カンタータの第52番は、光野孝子さんのご出演の内諾をいただいています。2007年夏の野尻湖コンサートではピアノ伴奏でご好演いただきましたが、定期ではホルン2本とオーボエ3本を従えます。ご期待ください。

第124番は、この12月のクリスマス特別演奏会でもご披露するもの。同じく定演でも、鏡貴之さんが若々しいテノールをお聞かせくださいます。コンサートの中心は、なんと言っても第4番の復活祭カンタータでしょう。パッサファン、合唱ファンを魅了してやまない、青年パッサの傑作中の傑作。われわれも再三の上演をつづけてきました。

次号（新年号）に詳細をご報告できると思います。お楽しみに。